

おおさか

第 55 号

大阪防衛施設局
総務部広報官編集

〒540-0008

大阪府中央区大手前4丁目1-67

電話 06-6945-4953



円城寺大門（仁王門）

三井寺（園城寺）

三井寺は、天台寺門宗（てんだいじんしゅう）の総本山で正式名称を長等山園城寺（ながらさんおんじょうじ）といい、滋賀県大津市に所在し、琵琶湖を望む南西の長等山中腹に広大な敷地を有しています。

日本四箇大寺（しかたいじ）（東大寺、興福寺、延暦寺、園城寺）の一つに数えられている古刹です。

六六七年に天智天皇が近江に遷都、大津京を開きました。天智天皇が亡くなった翌年の六七二年に皇位継承をめぐり壬申の乱が起こり敗れた大友皇子（天智天皇の子）の皇子大友与多王が父の霊を弔うために田園城邑を寄進して寺を建立し、天武天皇から「園城」という勅額を賜り、長等山園城寺と称したのが始まりとされています。

八五九年（貞観元年）に比叡山延暦寺の智証大師円珍和尚が、園城寺を天台別院として中興し、「四箇大寺」の一つに数えられました。俗に三井寺と呼ばれているのは、天智、天武、持統の三帝の御産湯に用いられた霊泉があり、「御井の寺」と呼ばれていたものを後に円珍が当時の厳儀・三部灌頂の法水に用いたことに由来します。

円珍の死後、円珍門流と慈覚大師円仁門流の対立が激化、九九三年（正暦四年）、円珍門下は一斉に比叡山を下り三井寺に入りました。この時から延暦寺を山門、三井寺を寺門と称し天台宗は二分されることとなりました。

その後、当寺は長い歴史の中で再三の兵火にあい焼失しましたが、豊臣氏や徳川氏の手により再建され、現在も多くの文化財が残されています。その数は、国宝十件（六十四点）、重要文化財四十二件（七百二十点）を数え全国でも屈指のものであります。

また、三井寺は、湖国近江の名勝、近江八景の一つ「三井の晩鐘」でも知られています。

この梵鐘は、その姿の立派さで有名な宇治平等院の鐘、その由緒の正しさで有名な高雄神護寺の鐘とともに、その音色の美しさで「天下の三銘鐘」の一つに数えられています。

（文・写真撮影とも 総務課）

管内の防衛施設の紹介

仮屋磁気測定所は、阪神基地隊隷下の部隊であり、海上自衛隊初の磁気測定所として昭和31年5月に開所されました。その任務は、艦艇の船体磁気測定であり、過去の測定実績は3165隻を数えております。因みに当隊は、お陰様をもちまして、開所50周年という大きな節目を迎えました。

今回は、この仮屋磁気測定所における地元との交流行事等について写真添えて紹介させていただきます。



観桜会

仮屋磁気測定所には、地元協力者から贈呈された桜の木が多数植樹されており、春には見事な花が咲きますので、毎年、桜の時期に地元協力者等の方々をお招きして恒例の観桜会を開催しております。昨年の観桜会は、あいにくの雨となり、屋内での実施となりましたが、自衛隊と地元住民との交流の機会として意義深いものになりました。

この観桜会は、地元住民も大きな楽しみとする行事として定着し、今年も観桜会の開催に対する要望が高く、所員にとっても桜の開花が待たれてならない状況です。



開所50周年記念行事

平成18年5月20日、仮屋磁気測定所開所50周年記念行事が、呉地方総監、阪神基地隊司令御夫妻及び淡路市長等、多数の来賓と地元協力団体から約150名の出席者を得て盛大に開催されました。記念行事は、所の敷地内での松の記念植樹から開始され、所長に続いて来賓の皆様が順番に盛り土を行っていただきました。続いて会場を近くの会館に移し、記念式典及び祝賀会を開催しました。記念式典は、所長の式辞に続いて、呉地方総監の訓辞、来賓代表の淡路市長からの祝辞と進行し、最後に協

力団体等に対する総監及び阪神基地隊司令からの感謝状の贈呈が行われました。その後の祝賀会においては、隊員が腕によりをかけて調理した料理を前に懇談に花が咲き、天ぷら、串カツ、うどん、カレーなどの屋台は大盛況で参加者の皆様に喜んでいただきました。また、地元支援者から贈呈された樹齢150年のケヤキの芯から造られた臼と杵での餅つきを行い会場の祝賀ムードは大いに盛り上がりました。この記念行事の開催は、地域に半世紀根付いてきた仮屋磁気測定所の歴史の節目となっただけでなく、所員一同、今後を着実に任務達成の継続を誓い合う一日ともなりました。

市民との交流会

12月9日、仮屋磁気測定所の年末恒例行事となっている市民との交流会「もちつき」が国会議員、市長、地元漁業協同組合の皆様及び阪神基地隊司令ご臨席のもと開催され、約100名が会場である仮屋磁気測定所庁舎前に集いました。当日は、予報どおり朝から雨で、天候が心配されましたが、「もちつき」大会の開始前には雨も上がり、出席者一同和やかな雰囲気の中で歓談を行うとともに、一年の労を互いに労いました。「もちつき」は、杵を振るう者、かきとりを行う者双方が周囲の人達から「よいしょ」の掛け声をいただきます

ながら、息もぴったりに餅を突き上げられました。突きあがった餅はその場で、大根おろし、きな粉、こしあんなどとともに振る舞われたほか、善哉もちとしても振る舞われ、会場は大いに盛り上がりました。



おわりに

仮屋磁気測定所は、明石海峡を挟んで神戸市に隣接する温暖な「花の島」として有名な淡路市に所在しています。仮屋磁気測定所の近くには四季折々にさまざまな草花を観賞でき、また、大阪湾や紀淡海峡景観を一望できる淡路島国営明石海峡公園や国際会議場、各種イベントやコンサートが開催される野外劇場等を有する淡路夢舞台などの名所がたくさんあります。近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。

首長さんには 聞きました

兵庫県

淡路市長

 門 かど
康彦氏 やすひこ

今回は、国生みの神話で有名な淡路島から平成17年4月1日に津名郡5町が合併して発足した淡路市の初代市長に就任された門康彦市長に登場願い、今後の市政に対する抱負等についてお聞きしました。



淡路市の紹介

平成17年4月1日に、地理的にも歴史的にも古くから深くつながりのある旧津名町、旧淡路町、旧北淡町、旧一宮町及び旧東浦町の5町が合併し、淡路市が誕生しました。

本市は、淡路島の北部から中部に位置し、東に大阪湾、西に播磨灘を

臨み、面積184平方キロメートルを有し、淡路島全体の約3割を占めています。また、人口は約4万9千人で、世界一の吊橋「明石海峡大橋」や阪神・淡路大震災の震源地「野島断層」のあるところとして知られています。

産業では、これまで第一次産業を中心に発展してきました。少子高齢化・後継者不足の課題はあるものの、とりわけ、水産業は盛んで、マダイやカレイ、タコ、アナゴといった高級魚介類をはじめシラスやイカナゴ漁、養殖のり栽培、また、水産加工が盛んに行われています。近年「獲る漁業」から「つくり育てる漁業」への転換が主となり、漁業生産額が約97億円となっています。

農業の特色としては、果樹や野菜、施設園芸が盛んに行われ、特にカーネーション栽培は国内最大の産地として有名で、また、果樹のびわ栽培も温暖な気候により国内有数の産地として知られています。

また、畜産業も盛んで、和牛・牛仔牛では、兵庫県内の約6割（うち淡路市21・4パーセント）が淡路島で生産され、淡路ビーフの素牛生産市と

して全国的に知られています。

第二次産業では、全国シェアの70パーセントを占める線香産業が特に有名で、盛んに製造がされ、線香の香り漂う街として知られています。

〇誇ることのできる文化

淡路島は、古事記や日本書紀、万葉集等に日本で最初に作られた国生みの島、天皇の台所の御料を奉る役割を担っていた「御食つ国」と記述されています。

市内には、この国生みのイザナギ・イザナミの二神を祀る伊弉諾神宮をはじめ、天皇に献上する塩生産が行われていた遺跡も発見されています。また、国天然記念物「野島断層」、国指定史跡「徳島藩松帆台場」等の文化財を有しております。

今の時代を担う私たちは、これらの伝えられてきた先人の文化を守り、次代につなぐ責任を果たさなければなりません。

今後の市政に対する抱負

淡路島1市10町から3市の時代となった今、過渡期にあつて、緩やか

な風を呼んでいます。

他の田園都市の例にもれず、本市もまた、市民生活を取り巻く状況は、少子高齢化・人口減少化の進行、高度情報化社会の進展、地球規模の環境問題など刻々と変化し、それに呼応するように、市民のライフスタイルや価値観も多様化しています。

これらの課題に対応するため、旧5町が互いに切磋琢磨する中で、築き上げてきた特色ある独自の歴史や文化を尊重し合い、それぞれの良さを更に磨きつつ、均衡ある発展を遂げる必要があります。魅力ある地域の資源を最大限に活用した取り組みを、市民・地域・行政が一体となつて進めながら、時代に合致した足腰の強い自立都市を創造していきたいと考えています。

市の将来像である「豊かな自然や文化、太陽の光に包まれ、人々の笑顔があふれる淡路のウェルカム・シティ」の実現を目指し、心身ともに健康で充実感あふれる生活が送れるよう市民の目線に立って、「新生淡路市」の未来を拓いてまいります。

淡路市と仮屋磁気

測定所との関わり

昭和28年に海上自衛隊が、艦艇基地の基盤である磁気測定施設を必要とされ、その建設予定地に淡路島東岸の本市仮屋付近が選ばれました。関係者の格別のご理解とご協力のもと、昭和30年12月に仮屋磁気測定所庁舎が完成し、昭和31年5月から現在に至るまでの間、船体の磁気測定作業が実施されています。

市では、仮屋磁気測定所が毎年開催されている「もちつき大会」などのイベントや各種ソフト事業に地域住民のみならず、市職員も参加し、交流を図っています。

とりわけ、防衛関連の各種補助金をいただき、市の主要産業である漁業施設の整備をはじめ、市内の施設整備、道路改良等の整備ができたことは、市民から大変喜ばれています。このように、海上自衛隊と本市は、今まで以上に緊密な連携のもと、良好な共存関係を維持し、なお一層の市政の推進に格別のご協力を是非お願いしたいと思っています。

座右の銘は

「心は少年」

健康法、余暇の過ごし方は

早朝（五時）起床、筋トレ、ジョキング、ラジオ体操、ゴルフ、歌など

プロフィール

1946（昭和21）年旧津名町で誕生

1968（昭和43）年関西大学文学部卒業

1968（昭和43）年兵庫県に奉職

2000（平成12）年兵庫県企業庁管理局長に就任

2001（平成13）年兵庫県淡路県民局長に就任

2003（平成15）年兵庫県代表監査委員に就任

2005（平成17）年淡路市長に就任

防衛施設庁創立

44周年記念式典

11月1日、防衛施設庁44周年記念式典が、当庁舎会議室において行われました。

式典では、国歌斉唱、局長挨拶に引き続き、永年勤続者表彰及び無事故運転手表彰が行われました。



○防衛庁長官表彰

会計課	山西	浩
施設企画課	桂	崇
施設管理課	藤田	浩仁
業務課	渡部	晴彦
業務課	山中	昌子
建設企画課	小西	昌文



○防衛施設庁長官表彰

総務課 森本 一夫
 施設補償課 若江 健
 設備課 大谷 裕治
 設備課 遠藤 幸



■事務所だより

「冬の味覚」

金沢防衛施設事務所

金沢から日本海に育まれた冬の味覚について紹介します。まずはカニ、石川県では11月6日、ズワイガニ漁が解禁になり、加賀市の橋立漁港などから水揚げされたカニで市場は大いに賑わいました。

また、今季から石川県産のズワイガニは石川県漁業協同組合が名称を一般公募し「加能ガニ」と決まり、PRしていくことになりました。「加賀」と「能登」を組み合わせた、この名前のほかにも応募の中には「百万石ガニ」や「兼六ガニ」などがあったそうです。地元では山陰の「松葉ガニ」、福井の「越前ガニ」のような全国ブランドへの期待が膨らんでいます。

カニと並んで代表格なのはブリ、寒ブリが獲れるころの雷は「ブリオコシ」と呼ばれており、北陸の人にとっては、冬の到来を感じる風物詩でもあります。また、成長すること呼び名が変わることから出世魚として知られており、各地でいろいろ



な呼び名がありますが、金沢では「フクラギ」、「ガンド」、「ブリ」などと呼ばれています。縁起物として年取り魚や贈答品としても人気です。このブリで有名なのが氷見の寒ブリ。富山湾にブリが来るのは冬の産卵前の一番脂が乗り切った頃。その時期に、日本海の冷たい荒波に揉まれて身が締まっているのが美味しさの秘密。刺身にしてよし、ブリしゃぶやブリ大根、塩焼きにしてよし。また、金沢ではかぶら寿司にも使われています。

今年もこの季節、自然の恵みに感謝しつつ暖かな春の訪れを待ちたいものです。

「京都国際マンガミュージアム」

京都防衛施設事務所

日本には様々な文化がありますが、その中でも世界に誇る文化の一つに「漫画」が挙げられます。

特にここ最近、国際的にも高い評価を得ており、学校教材や国・自治体の広報誌等にも積極的に用いられ、私たちの生活の中においてとても身近な存在となっています。

そこで今回は、11月25日に開館した「京都国際マンガミュージアム」についてご紹介したいと思います。

この施設は、京都市と京都精華大学の共同事業として、地域住民の深い理解と積極的な協力により京都市中京区の旧龍池小学校の現存校舎を再活用し、漫画の研究・人材育成・学習・収集・展示等の機能を備えた日本初の総合施設で、地上三階、地下一階建、延べ面積5010平方メートルの中に一般公開用ギャラリーゾーン、研究ゾーン、資料収集ゾーン、地域利便施設の四つのゾーンで構成されています。

その中の一つの資料収集ゾーンには、漫画が20万点収蔵されており、中には貴重な資料も多く、例えば明

治7年に日本人が最初に描き刊行された漫画雑誌や京都で創刊された漫画雑誌及び日中戦争期や太平洋戦争直前の社会的背景を風刺した漫画等今日私たちが目にする漫画の原点とも言える資料が数多く收藏されています。

また、京都市では文化創造、観光誘致、産業振興等の幅広い分野における漫画文化の育成を支援する一環として、2008年に「国際マンガサミット」を開催することが決定しており、国際的な文化交流施設としての役割も担っています。

最後になりますが、ここ京都は寺院・神社など歴史のある観光地が多く、国内外から年間4700万人の観光客が訪れています。この魅力的な街にまた新しい観光地が誕生しましたので皆さんもぜひ、京都に來られた際には一度訪れて、実際に手に取っていろいろな漫画にふれてみてはいかがでしょうか。



退職者の紹介

平成18年12月31日付で業務課 課長補佐小坂 知氏が退職されました。永年の勤務お疲れ様でした。

今後ますますのご活躍とご健勝を職員一同心からお祈りいたします。

おさか 知 昭和47年入庁
業務課課長補佐



宅建取得のすすめ

宅建主任って聞いたことありませんか？正しくは「宅地建物取扱主任者」という国家資格です。

不動産屋さんの免許は無試験の申請のみ（審査はありません）で交付されますが、本・支店等の事務所ごとに一定の数の宅建主任を置かなければならないとされており、宅建主任抜きでは取引できない仕組みになっています。

試験は毎年7月中に申込受付があり、10月の第3日曜日に各都道府県で実施されます。試験時間は2時間で、出題数は50問、4択です。合格ラインは年により変動しますが、正答率7割程度、合格率16%前後です。試験の内容は、おおむね次のとおりで、宅地建物取引業に関する実用的な知識を有するかどうかを判定することに基準が置かれています。

一 土地の形質、地積、地目及び種別並びに建物の形質、構造及び種別に関すること
二 土地及び建物についての権利及び権利の変動に関する法令に関すること

三 土地及び建物についての法令上の制限に関すること

四 宅地及び建物についての税に関する法令に関すること

五 宅地及び建物の需給に関する法令及び実務に関すること

六 宅地及び建物の価格の評定に関すること

七 宅地建物取引業法及び同法の関係法令に関すること

主要関係法令としては、民法、借地借家法、不動産登記法、建築基準法、国土法、農地法、土地区画整理法、宅地造成等規制法、宅建業法、宅地・建物に関する税法等があり、並べて書くとは範囲で、合格率も厳しい数字に見えますが、年齢、学歴の制限はありませんし、ウエブを覗いても比較的取りやすい資格とされています。

取得・管理業務の経験者であれば、鑑定・土地評価、相続、不動産関係の税法や登記法などの実務上関わりのある分野はおさらい程度で十分です。建設系の方であれば国土法、都市計画法や建築基準法などは同様であろうと思います。

また、代理、相続、相隣関係など

は、誰でも社会生活上出会う場面が必要になる内容なので、資格取得のためだけでなく、知っておくことで、そのような場面での対応が随分と違ってくると思います。

勉強時間の目安として、あるウエブでは300時間程度と出ていましたが、業務上全く関わりのない人の場合と思われます。

私の場合、2月頃から通勤電車の中でいわゆる基本書を通読し、次に過去問を解くというパターンを2回繰り返ししました。通読・過去問というパターンはお勧めしますが、電車内の騒音・振動は目に大変過酷だったらしく、段々と小さな文字が判読できなくなり、試験の際には眼鏡が必要な状況になってしまった経験から、通勤勉強はお勧めしません。

年明けからの準備で十分間に合います。再就職にも役立つでしょうし、社会生活上必要な知識も増えます。特に、今後マイホーム購入を考えている方には大変役立つ内容です。宅建取得、一度考えてみてはいかがですか。

(業務課 W)

小野市「小野八ヶ池

自然公園竣工

「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」に基づき、青野ヶ原演習場等の周辺対策事業として、平成16年度から対象地域である小野市河合中町で実施していた小野八ヶ池自然公園が完成し、12月16日に竣工式が行われました。

当該施設の事業費は約500百万円、補助金は約310百万円です。今後、地域住民の皆様の憩いの場として末永く活用されることを期待します。



業務紹介

☆国民保護法における当局の役割

総務部総務課

平成15年6月、我が国が外国から武力攻撃を受けた際の対処について基本理念や国、地方公共団体等の責務などや今後整備すべき事態対処法制を定めた「事態対処法」が成立、施行されました。

これを受け、平成16年6月14日、武力攻撃事態等において武力攻撃から国民の生命、身体及び財産を保護し、国民生活に及ぼす影響を最小にするため必要な事項を定めた「国民保護法」が成立（9月17日施行）し、翌年3月には、武力攻撃事態等における国民の保護のための措置の実施について国としての基本的な方針などを定めた、「国民の保護に関する基本指針」（以下「基本指針」という。）が閣議決定されました。

防衛施設庁は、国における国民保護措置の実施主体である「指定行政機関」（各防衛施設局は「指定地方行政機関」）に指定されており、基本指針に基づきその所掌事務に関し、防衛庁と一体として、平成17年10月

28日、内閣総理大臣に協議の上、「防衛庁・防衛施設庁国民保護計画」として作成されました。（平成18年3月27日、7月31日、平成19年1月9日一部変更。）

これを受けて、防衛施設庁及び各防衛施設局は、国民保護措置の実施体制を整備するため国民保護連絡会議設置運営要領及び国民保護対策本部設置運営要領を制定しました。

当局としても、当局で制定した要領に基づき、緊急連絡網の整備を行ったところです。

「防衛省・防衛施設庁国民保護計画」（平成19年1月9日防衛庁が省へ移行）における当局の実施する具体的事務は、①平時において都道府県から避難施設の武力攻撃災害に対する防護性能向上等に係る協力を求められた場合の技術的助言等の協力、②住民の避難に関する措置として、在日米軍施設・区域内通行に関する連絡調整、周辺財産の使用に係る調整及び手続、③応急復旧に係る措置として応急復旧を実施する部隊からの技術的支援要請に係る協力などがあります。

なお、都道府県における国民保護

計画は平成17年度中に作成が完了し、市町村における国民保護計画は今年度中に作成予定です。

当局においては、現在当課に調整官及び企画調整係を置き、本業務推進に関する事務を担当させ、本庁及び地方公共団体等との連絡調整等を行っています。「備えあれば憂いなし」。本業務推進のため、皆様方のご協力とご理解が必要となります。よろしく願います。

☆小松飛行場滑走路の

老朽化に伴う改修工事

建設部

小松飛行場は、国内・国際線の旅客定期便や国際貨物便などが離発着する北陸の空の玄関口としての民間空港と我が国の日本海側の防衛を任務とする唯一の戦闘機部隊である航空自衛隊小松基地を有する共用飛行場となっております。

その歴史は、昭和19年に旧海軍の飛行場として開設され、第二次世界大戦後は米軍に接收されておりましたが、昭和36年に同基地が開設され、1年遅れて昭和37年に民間航空機の

乗り入れが開始され共用飛行場として今日に至っております。

現在の滑走路は、昭和48年に改修工事が行われて以来約30年余が経過しており、劣化等調査の結果、改修工事が必要とされました。本稿では、その工事の概要等について紹介いたします。

本改修工事の特徴としては、飛行場機能を確保するため本滑走路のそばに並行する形で仮設滑走路を建設し、本滑走路改修工事中は、仮設滑走路を使用して航空機の離発着などを行い運用中断のないように実施したことがあげられます。

平成13年度調査・基本検討、14年度設計を行い、15年3月に仮設滑走路の工事に着手、17年3月より仮設滑走路で運用を行いながら本滑走路の嵩上げ等の改修工事に着手いたしました。

平成18年10月末に本滑走路の改修工事が完了し、仮設から本滑走路への運用切替のための準備期間を経て、同年12月20日（水）夜から21日（木）未明にかけ航空灯火などの切替工事を実施いたしました。

当日は冬場の日本海側特有の荒天

が心配されましたが、同気象隊により雪・雷の心配は無く穏やかな天候であるとの事前説明を受け作業開始の運びとなりました。

切替工事は、運用中断等で飛行場機能を損なうことがないよう飛行場の使用頻度の少ない民航の最終便到着後から始発便の出発までの間におこなうこととしていましたが、開始前に同救難隊に出動要請があり航空機が発進したものの帰還時間が未定との情報もあり、一時は開始が大幅遅れるのではないかと心配しましたが、約30分の遅れで着手出来、予定通りに終了することが出来ました。

その後、真新しい本滑走路上で同基地主催のオープニング・セレモニーが実施され、民航始発便の見送りが行われました。

最後に、本改修工事は本切替工事を終了したことで大きなピークを超えることが出来ました。これも、石川県・小松市当局、同基地、工事に携わった企業の方々、その他多くの関係各位の並々ならぬ熱意と御協力によるものであり、これに深く敬意を表し本稿を終了させていただきます。

講演会の実施

1月22日と23日、局内全職員を対象に「職員の徹底的な意識改革及び自己啓発の資とするための講演会」を庁舎会議室で実施しました。

講師は、（社）中高年齢者雇用福祉協会PREP経営研究所から山下征紀主任講師を招き、「自衛隊員の行動規範」と題し、講演が行われました。

引き続き当局伊藤総務部長と渡邊建設部長が講師になり、「公益通報者保護法について」及び「官製談合防止法について」講演が行われました。

講師からの確かな指導、助言がなされ、また、自衛隊員として接する機会がありそうな事態を想定し、問題点などを討議するなど、有意義な講演会となりました。

平成19年1月9日、 防衛庁は防衛省に移行しました